

「まいにち笑顔 みんなが笑顔」

3.11から15年



先週の土曜日、多摩平の森で「ふれあい館祭り」が行われました。ここでは、地域のいろいろな団体が参加して発表や出し物をしているのですが、ここに七小の6年生が招待され、今年1年間、総合的な学習の時間で学んできたことを代表児童が発表しました。それは、大きな地震などが起きた時に避難所生活を送るようになることがあると思います。七小も避難所に指定されていますので、実際に避難所生活を体験し、そこで感じた不便さをどう解消していくかを、避難所生活での心得、避難所でも美味しく食べられる防災食、避難所でストレスをためないためのスペースづくりについて提案する形でした。当日は、市長や市議会議長も参加されていて、子供目線でのプレゼン内容に「本当にそうだね」と頷かれていました。避難所生活など、ないに越したことはないのですが、しっかり備えておく必要はあります。

さて、3月になると忘れられない出来事があります。先週、避難訓練もあったので副校長先生からも話があったと思いますが、明日11日は東日本大震災から15年目になります。皆さんが生まれる前の話です。しかし、ここでの教訓は忘れてはいけないこととして、いつも思い出すようにしています。

「忘れられない出来事」「忘れてはいけないこと」と言いましたが、3.11の被災以降、津波で流された家を片付けたり、大切なものを泥の中から掘り起こしたりするスコップ団というボランティア団体がありました。その団長がこんな話をしていました。「3月11日を忘れないようにしましょう、ということは、よく言われます。しかしその日は、忘れないようにする日ではなく、忘れられない日です。忘れたいのに忘れられない日が3月11日です。」

被災した人たちにとっては、消し去りたい、忘れたい出来事でも、忘れたくても忘れられない日なのです。そして、こんなことも言っていました。

「いちばん忘れちゃいけないのは、なんてことない、ほんとうになんでもない日々です。幸せだったはずの、前の日なんじゃないかと思います。」

3月11日に大震災が起こりました。しかし、その前の日の10日までは、何てこともない、当たり前の日常を過ごしていたのです。その日々を幸せだったと言っているのです。そして、大震災から1年後の3月10日、亡くなった方へ「こっちは元気です」と伝える思いを込めて、2万発の花火を打ち上げたのです。

大地震が起きたり、もしかしたら爆弾が落ちてきたりして、明日から避難所生活になるかもしれません。地震はいつ起きてもおかしくないと言われていますが、それは「いつか」ではなく、「明日」でも「今日」で起きるという意味です。その時に備えるのはもちろんですが、今日という、当たり前の日常を大切に過ごしていきましょう。